

## 【青葉区】令和6年第1回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和6年2月5日（月） 午後4時00分から午後5時20分まで
場 所	青葉市役所4階会議室及びWEB会議室
出席者	【座 長】伊藤くみこ議員 【議 員：6名】田中ゆき議員、山下正人議員、横山正人議員、藤崎浩太郎議員、行田朝仁議員、おさかべさやか議員
	【説明局員（青葉区）：23人】  中島区長、吉田副区長、青木福祉保健センター長、壺井福祉保健センター担当部長、鈴木青葉土木事務所長、瀬上青葉消防署長、ほか関係職員
議 題	令和6年度 個性ある区づくり推進費 青葉区編成予算（案）について
発言の旨	行田議員  14ページの認知症施策について、サポーター講座やキャラバンメイトなどをやっていると思うが、情報もアップデートされ、治療薬のレカネマブが出てきた中で、こういう公開講座を望む区民の声がある。一方で、区の保健師も頑張ってくれており、パーキンソン病や神経難病の家族も含めた青梨の会という集まりでは先生をお願いしたり学ぶ機会をつくってはいるが、高齢社会の心配事の一つはやはり認知症対策がある。区の発信として、公開講座をもっと積極的にやっていくという議論は今回なかったか。
	倉田高齢・障害支援課長  認知症に関しては、確かに区民の方々に非常に不安に思われている方もいる。今年度も講演会を実施し、たくさんの方に参加いただいている。今のご意見を踏まえ、認知症関係の講演会等については、9月のアルツハイマー月間等もあるので周知等をしっかりと実施し、引き続き検討していきたい。
	行田議員  引き続きお願いしたい。特に12月末に東京でレカネマブの投与が始まり、横浜市内で取り入れたいと積極的に言っているのは東部病院と横浜総合病院の2病院と聞く。こうした講座や知る機会を区役所としてしっかり提供できるよう要望したい。講座もさらに一步踏み込んでいいものにしてほしい。 39ページの地域防犯支援事業について、市民局で防犯カメラの設置費補助を実施しており、来年度予算案でも1台当たりの地域への支援額が増えるが、知っている地域と知らない地域があり、周知がいまひとつうまくいっていない。その課題に対してどういうアプローチをしていくか、局事業ではあるが、連合町内会の町会長に話をしたというだけでなく、単位町内会でこの話が出てくるものなので、しっかりと周知していただきたい。
	帰山地域振興課長  防犯カメラの設置については、まずは区連会で紹介し、地区連長の皆様が各地域の定例会に持ち帰って各単位会長にも紹介しているが、十分伝わっていないという声があるようであれば、直接周知できるような方法も考えていきたい。また、地区定例に区役所の地区担当の課長も出ているので、そこでも改めて周知するように投げかけていきたい。
	行田議員  防犯カメラは昨今の状況も踏まえ、いろいろな地域の合意形成も必要な中でやりたい声があるのでお願いしたい。

田中議員	<p>21ページの地域スポーツ振興事業に関して、青葉スポーツセンターの運用について、先日行われたスポーツ人の集いでカーペット部分は土足禁止であり、中に入ってまた履き替える構造になっている。それに対する意見がこれまでもあったと思うが、運用の見直しの現状について教えていただきたい。</p>
帰山地域振興課長	<p>スポーツセンターのカーペットが敷かれているエリアの利用方法について、現状は裸足もしくは靴下という状況である。この点はスポーツセンター側と調整し、4月1日からは、裸足、靴下に加え、底がゴム製のスポーツシューズも利用いただけるように改める。ただし、外履きや土足、底の硬いシューズの利用は、引き続きご遠慮いただきたいと考えている。スポーツセンターのホームページでは1月5日から、館内でも掲示等により周知を始めている。</p>
田中議員	<p>利用者の声は反映されているが、運用の変化で混乱等が生じたり、各団体からもいろいろ声があると思うので、丁寧に対応いただきたい。 青葉スポーツセンターの空調について、スポーツ施設ということで競技によっては暑くなったり、特に冬は暖房を使用しない団体も多いと思う。ただ、活動によっては空調が効いていなくて寒いという声があるが、暖房を入れてほしいという声があれば入れてもらえるのか。言わないと入れないのであれば、入れてほしい場合はお声かけください等の周知はしているか。</p>
帰山地域振興課長	<p>空調をご要望の場合は、お申出いただいた際に空調を入れる形で対応している。運用はスポーツセンターのホームページで案内しているが、どこまで届いているかというところはある。また、第1体育館は、空調を入れても天井が高く空間が広いので、効くのに時間がかかることがある。第2体育館は先日のスポーツ人の集いでも比較的すぐに空調は効いていたので、その辺もスポーツセンターと話をして対応していきたい。</p>
田中議員	<p>効きが悪い部分は構造上仕方がないかもしれないが、もし入れていただく場合にお声かけが必要で、それを知らない方は寒い思いをしていたようなので、そうした周知もお願いしたい。 区民マラソンについて、昨年度はどのくらいキャンセルが出たか。</p>
帰山地域振興課長	<p>11月に開催した区民マラソンでは、1,090名程度の方にお申込みいただき、当日出走された方は960名弱で、100名程度の方が当日不参加の形で欠席だった。</p>
田中議員	<p>区民の中には、事前キャンセルが分かるのであれば、もう少し追加募集をしてほしいという声がある。キャンセル枠を見込んで多く募集することなども検討してほしい。</p>
藤崎議員	<p>資料1、予算の体系の1番について、「養育者の不安や孤立感を軽減します」とある。これは非常に重要な課題だと思うが、具体的に区役所として、この不安や孤立感がどういう形でどの程度存在しているのかの指標を持って軽減しようとしているのか。なかなか図りづらいものなので、施策を充実させることで孤立感を持つ人たちをすくい上げられる仕組みをまずはつくろうとしているのか。その辺の考えを教えてください。</p>
高田こども家庭支援課長	<p>孤立感が多いことについて、青葉区は転入者が多いので、知らない場所で子育てを始める方が多いというのが一つある。それから、地域からの声や、乳幼児健診の問診票の「相談できる人はいますか」という項目等から統計を取って、不安をお持ちの方がいるとの状況を把握し取組を進めている。</p>
藤崎議員	<p>16ページのメンタルヘルスに関するパンフレット作成について、3,000部作成はいいと思うが、これだけDXと言っている中で、同等の内容が紙以外で見られるようにしたり、同等以上の情報をインターネット等々で簡単に見られ、当事者に伝えることが非常に重要だと思う。紙で渡す重要性はあると思うが、それ以外の方にも様々な形でご覧いただけるようにするのもいいと思うので、紙以外の考えがあれば教えてください。</p>

<p>倉田高齡・障害支援課長</p>	<p>デジタルへの移行は区でも考えている。令和5年度予算では、ホームページ上に誘導するチラシ作成代を計上し、実施している。しかし、障害者や高齢者は、紙へのニーズが高いので、紙と併用してウェブに誘導することを同時に進めている。その中で、紙とデジタルの双方に対するニーズをしっかりと検証して、徐々に紙媒体を減らすことを段階的に進めていきたい。</p>
<p>横山議員</p>	<p>区づくり推進費の性質から考えると、区として、横浜市の予算の中で手の届かないところを区づくり推進費で埋めていくという考え方があると思う。限られた予算なので、毎年同じことをやっていると思ってしまう、スクラップ・アンド・ビルドでいかないと編成は難しいと思っている。今回、新規事業と継続的な事業、または去年から始めて今年も実施する短期事業の仕分けは、どういう割合になっているか。毎年やっていることを編成する予算になりつつあるのではないかという感じを受けているが、その視点で見ているか。</p>
<p>中島区長</p>	<p>正確にどれが何割かは集計できていないが、新規、継続、短期事業とすると、全体としては確かに3年以上継続されているものかなりの部分を占めている。区民の皆様からのニーズがあるからこそ継続しているところではあるが、できればいずれは市全体の施策としてやってもらいたいと考えている。ただ、青葉区の特性として、全市的にやり切れない部分についてはやむを得ないものもある。そうした中で、今回の見直しに当たっては、例えば青葉ブランド事業を5～6年やってきたが、商店街活性化・中小企業振興事業に統合する形で集約している。また、認知症関係の啓発事業の経費など、紙からウェブに誘導することも含めてできる工夫をしている。さらに、昨年8月から戸籍課でウェブ予約ができる広告システムも導入しており、必要なサービスを、税金を使わず、広告料などもいただきながら実施する工夫も続けていきたい。</p>
<p>横山議員</p>	<p>区づくり推進費の予算編成をぜひ進化させていってほしい。5項目内にある「選ばれるまち」については、常に私自身も青葉区や横浜市がどうしたら選ばれるのかを考えており、ものすごく大切なところだと思う。高級住宅街青葉区は、最終バスを逃すと絶望的なタクシー待ちの行列に並ばなければならない、この状況では選べないと思う。では、深夜バスが復活するかということ、運転士不足や働き方改革で難しく、既成概念にとらわれない別の方法を考えていかないと深夜の区民の足を守ることはできないと思うが、いかがか。</p>
<p>中島区長</p>	<p>昨今の運転士不足はバスもタクシーも同様で、これが急に業界全体で元に戻るといのは厳しいと思っている。一方で、乗合タクシーの検討も声が上がっているが、それが入るとますますバス・タクシー業界の経営を圧迫することにもなりかねず、そこは検討しつつも慎重に対応しながらやっていかなければいけない。こうした交通の問題、特に郊外住宅型の区というのが青葉区の特性としてあるので、どうしても駅と家の間をつなぐ公共交通機関やタクシーなどが不可欠である。今回モデルとして実施しているデマンド交通は日中が中心なので、深夜の取組には直接結び付かないが、それも含めて都市整備局などと一緒に考え、どうやって区民の移動手段を確保するかを検討し続けていきたい。</p>
<p>横山議員</p>	<p>例えば夜のタクシー待ちを見ると1人1台ずつ乗っていく。これは効率が悪く、乗合にすればいいが、料金やルートが複雑になる。私は単純明快に、今まで深夜バスが走っていたルートを乗合タクシーに走ってもらえばいいと思う。降りるのはバス停だけなどに限定して回転していけば、深夜バスに代わる乗り物になっていくのではないかと思う。こういう発想も既成概念にとらわれずに考えてもらいたい。あとは、人が周りに多く住んでいても1時間に1本もない停留所問題も真剣に考えていただきたい。</p> <p>それから、スポーツセンターは4月1日から運用を変えるところのことだが、これは当然の話だと思う。そもそもスポーツセンターは靴を履き替えるように設計されておらず、体育室は外履きは駄目だが、その前のフロアは外履きで往来しようという設計に最初からなっており、そういう運用で横浜市がつくっている。見直し方は、スポーツセンターには靴箱がないため、催し物があるとそこらじゅうに靴を置くことになるが、そうした対策もどう考えたらいいか。</p>

<p>帰山地域振興課長</p>	<p>下足の履き替えについては、多少靴箱があるが、十分な数が用意されているわけではない。自分の持ってきた袋に入れて、利用されている方もいるが、スペース的な問題もあって設置できていないところもある。そもそも土足を認めればそういった問題もなくなるので、4月1日に一部運用を改め、引き続き当初の運用に戻せないかを指定管理者側と協議していきたい。</p>
<p>横山議員</p>	<p>指定管理者がどうしても土足で入れさせたくないのであれば、指定管理者がロッカーを設置するべきである。使用者はそこに靴を入れて、中は裸足なり靴下なり、体育館履きで往来すればいい。誰も望んでいないことを指定管理者だけが言っているのだから、指定管理者の責任で靴箱を用意しなさいということぐらいは、言ってもいいのではないかと思う。</p> <p>また、自治会・町内会については、区政運営の重要なパートナーであり、その協力がなければ、区政運営はなかなか難しい。最近、自治会・町内会の方々から相談を受けるのは、各種委員の選任や推薦についてで、特に厳しいのが民生委員の成り手がいないし困っている件である。この間も相談があり、本当に成り手がいないのであれば、「いません、推薦できません」と区役所に返しなさいと伝えた。それを受けて、青葉区なり横浜市なりが民生委員の成り手不足や選任方法について考えればいいことであり、そこを自治会・町内会の皆さんに嫌な人を無理やり選任してもらおうようなことは、いいことではないと思うが、この各種委員の選任についてどうか。</p>
<p>大崎福祉保健課長</p>	<p>現在、全市的に民生委員や地域の負担軽減策、それから活動支援にも取り組んでいる。民生委員をどうしても選ぶことができない欠員地区は、青葉区では地域に見守りサポーターを選任していただき、活動に対して補助金を出すことで、カバーしている方々の負担軽減を図っている。引き続き次回の選任の時期に向けて、市全体の動きを含めて負担軽減と活動支援に努めていきたい。</p>
<p>横山議員</p>	<p>先ほど申し上げた「どうしてもうちからは選べません、推薦できません」という自治会が出てきた場合は、それを受け入れるということによいか。</p>
<p>大崎福祉保健課長</p>	<p>ぜひ選んでいただきたいが、現状選べないということであれば、行政側から無理やりということではできない。</p>
<p>壺井センター担当部長</p>	<p>現状として民生委員の欠員地区もある。その場合は、近隣の民生委員にその地区を見守ってもらうようお願いしているが、負担がかなり重くなるので、青葉区の場合は見守りサポーター制度を導入し、そうした方に対して補助を出すことにしている。今後、市全体としても、民生委員の負担軽減や、次にやっていたく方の協力員制度のようなものを考えながら対応していきたい。</p>
<p>横山議員</p>	<p>専業主婦が多くいた時代のビジネスモデルだと思う。核家族化が進み、共働きが当たり前で65歳、70歳まで働く時代なので、なかなか難しいのは事実だと思うから、時代に合わせた仕組みに変えていかないといけない。</p> <p>次に、公園の扱い方について、公園内でボールを使って遊ぶところと遊んではいけないところがあると思うが、ボールに関わるトラブルをどう理解しているか。</p>
<p>天下井土木事務所副所長</p>	<p>ボール遊びについては、硬いボール等の使用は駄目と掲示しているが、徹底されていない。区民の方からもパトロールしてくれという声もあるが、対応できないところがある。公園利用マナーの問題でもあるので、一般的な公園では硬いボールを使った野球などは禁止していることを看板で掲示している。周囲に危険が伴うようであれば専用グラウンドでやっていただく。サッカーについても近隣、利用者から結構苦情がある。子どもが少人数でやる程度であれば、けがもない状況だが、中学生や小学校高学年になると危険を伴うので、利用禁止であることを看板で掲示している。</p>

横山議員	<p>梅が丘第2公園でボールで遊ぶなどと言っても、子どもは遊びたくなってしまいう。だとすれば、思い切り遊べるようなフェンスで囲った場所をつくる一方で、やってはいけないところは絶対駄目とすべき。そうしないと家の中にボールが入ってきてしまう。私も公園に隣接する建物に飛び込んだボールの数を見せてもらったが、ひどいと感じた。その公園は、フェンスのある方向に大丈夫だろうと思ってボールを投げたり蹴ったりして、ボールが行ってしまうので、例えば反対側に、ボールを投げたり蹴ったりできるような板を作って誘導しないと駄目である。これまで対策を講じてくれていると思うが、この公園は全く実効性が上がっていない。そろそろ、この公園はボール遊び禁止とするなどけじめをつけるべきだが、どうか。</p>
天下井土木事務所副所長	<p>区でもボールがフェンスを越えないような方向で蹴ってもらうように、対策は考えているところである。ボールがフェンスを越えて飛び出るような遊びはしてもらいたくない。既存フェンスをこれ以上高くするのも限界がある。子どもたちの遊び方を監視することはできないため、近隣の小学校への相談や、県警察で注意させる程度が、土木事務所で出来る対応としては限界だと考えている。</p>
横山議員	<p>今の説明を聞いて、対策を講じているとは思えない。全面的に禁止にしようか、あるいは反対側に蹴ったり投げたりできるような対策をつくらないと駄目。この問題は長く解決していないのでフィニッシュを決めていただきたい。</p>
鈴木土木事務所長	<p>ご指摘の問題には数年来対応しており、昨年度はボールあての的となっていたと思われる柵を撤去した。遊びの制約をかけるに当たっては、小学校への声かけや、公園愛護会の意見等、公園利用の制限等ルールを作ることへのご相談をさせていただかないといけないと思っている。例えば広場の真ん中に木を植えることでボール遊びの制約にはなるが、これまで使っている地元のお祭り等の利用が難しくなるので、使用する皆様の声を聞きながら対応させていただきたい。</p>
横山議員	<p>本当にやらないと、周りの方々が非常に迷惑している。ボールが入ってきているのだから、自分の家だったら本当に大変なことである。 最後に谷本公園について、買っている土地がかなりの部分を占めてきており、そろそろ、大体いつまでに買収を済ませて工事に入り、事業化するという目途を区として決めていくタイミングになってきているのではないかと思うが、どうか。</p>
井波区政推進課担当課長	<p>谷本公園に関しては本当に長い時間かかっているのは十分承知している。局側と意見交換をしているが、頑張っ土地を購入しているが、残っている部分もあるので、とにかく早くやる、いつまでというのは協議しても出ないところである。区からいつまでにやれと言うことは難しいが、スケジュールも意識しながら、これからも協議していきたい。 前回看板等の話をされていたが、来年度は整地し柵をつける。高速道路や農地もあるので、看板の大きさなど規制を踏まえつつ、目に見えることを少しずつ始めていくことを考えていると局から聞いている。</p>
おさかべ議員	<p>38ページの3R推進事業の食品ロスの削減について、先日の賀詞交換会は立食でテーブルにかなり食品が余っていたかと思うが、大体どのくらいのフードロスがあったか。30周年事業も、食事を伴うようなことを考えているか。</p>
富澤総務課長	<p>賀詞交換会終了後に集めたものを見ると、大皿で4皿分程度残っていた。食品によって人気に差があり、エビ等は結構残っていて、やはり食べづらいものは残ってしまったのかなという反省点はある。 30周年の記念式典については、実行委員会の皆さんと話をしており、区民まつりの翌日に、食事無し・式典のみの形式で実施することを考えている。</p>

おさかべ議員	<p>賀詞交換会や、消防署や警察署でも食事を伴う会があると思うが、そうしたものを全部足すと、かなりのフードロスだと思う。紙のパック等に詰めて最後に皆さんに持たせるとか、欲しい人は自分でよそうかもしれないが、区役所からそうやって努めていかないと、38ページに書いてある食品ロス削減に現実味がなくなってきてしまうので、ぜひそういう取組をお願いしたい。</p>
富澤総務課長	<p>できる工夫をしていきたい。一方で、お持ち帰りについては食中毒の危険性もあるため、バランスを見ながら検討していきたいと考える。</p>
おさかべ議員	<p>自治会のパーティーなどでは持ち帰っているところもあるようなので、ぜひ前向きに検討してほしい。賀詞交換会は冬なので、そんなに気にしなくていいのではないかと思う。</p> <p>5ページの子育て相談ひろば「にこにこ」が新規で発達に不安がある子が対象だが、私が乳幼児健診に行っていたときは、子どもが着替えたり洋服を置く場所があった。遊びを通した発達の促し方を紹介すると書かれているので、子どもが実践できるようなスペースを乳幼児健診で設けるといふことか。</p>
高田こども家庭支援課長	<p>現在は、1歳6か月健診のときにお子さんの発達に不安があると話された養育者に対して、お子さんが2歳前後になったときに、保健師等から電話を入れて様子を確認して支援につなげている。子育て相談ひろば「にこにこ」は、電話ではなくて対面でお子さんの様子を確認し、直接相談を受けることで適切な支援につなげ、不安を軽減する取組である。そのため、健診時に行うものではなく、健診のときに不安があった方に対して、2歳前後に行う取組となる。</p>
おさかべ議員	<p>後日また対面でそういう場を設け、もう一回子どもを連れて区役所に来てもらうということか。</p>
高田こども家庭支援課長	<p>そのとおり。</p>
おさかべ議員	<p>そのときには、マット等を敷いて、子どもが実際に体験できるようなことはするのか。</p>
高田こども家庭支援課長	<p>お子さんが遊べる場所をつくり、保育士や保健師が、家庭でもできる発達を促す遊びを紹介する。</p>
おさかべ議員	<p>ぜひ実践してほしい。</p> <p>6ページの30周年記念講演で子育て中の保護者などがテーマの講演があるが、子連れで来た場合には託児所のようなことはやってもらえるのか。</p>
高田こども家庭支援課長	<p>子育て中の方を対象にしているので、託児スペースをつくるか、別部屋で見るとかはこれから検討するが、そういった場をつくっていきたいと考えている。</p>
おさかべ議員	<p>そういうところを設けてもらわないと、子どもが泣いて全然講演が聞けないことがあるので、ぜひお願いしたい。また、区役所内に子どもを遊ばせながら相談できるような一面があるといいと思うので、ぜひ検討いただきたい。</p>
高田こども家庭支援課長	<p>お子さんを遊ばせながら相談できる場所としては、10ページの児童虐待防止対策事業のウ「見守り保育付き相談」で実施している。こども家庭支援課の一面にお子さんが遊べるスペースを作り、保育者がお子さんの見守りをしている。</p>
おさかべ議員	<p>できればぜひ常設を考えていただきたい。抱っこひもで子どもを連れて区役所に来て、子どもをちょっと解放して遊ばせてあげたりすることもでき、同時に相談できると非常に効率的だし、子どもにとっても楽しめると思う。</p>

山下議員	16ページのメンタルヘルスについて、どういった情報を出すのか。パンフレットをつくることに関しては全く異論はないが、中身のコンテンツの問題。青葉だけ何か特筆したような情報提供をするということか。
倉田高齢・障害支援課長	特筆した内容というわけではないが、自立支援協議会の中では、周りにちょっと気になる人がいるときに、どうアプローチしていいかわからないなどの意見をいただくことがある。身近な人がいつもと違う、あなたの周りにいらっしゃいませんかと、一般的な内容にはなるが、専門機関につなげるようなパンフレットになることを想定している。
山下議員	周りでサポートする方向けの情報ということか。
倉田高齢・障害支援課長	当事者というよりは、対象者は広く一般区民の方を想定した内容となる。
山下議員	そうであれば、青葉に特筆したものではなくて、健康福祉局でこういうものを持っているのかは分からないが、将来的には共有して全市展開することになると思うので、視野を拡大していただきたい。メンタルに関しては、当事者や家族の方からいただく意見は、いい医者を紹介してくれというのが一番多い。これはなかなか難しいが、区内に自信を持って紹介できる場所はありますか。
倉田高齢・障害支援課長	区からどの病院という話は難しいところがあるので、その方の居住地や状況を踏まえて幾つかの選択肢をお示しして寄り添っていく。
山下議員	医者を間違えると重症化してしまうことがあるので、ここは非常にセンシティブなところだと思う。 28ページのマスタープランについて、青葉区は住宅街で成長した中で、区が目指す街のづくり方をマスタープランに書き込んでいかなければいけない。用途の問題や地域交通の問題等いろいろなものが出てくると思うが、マスタープランの中に今言った課題は当然書き込んでいく方向性でよいか。
中島区長	マスタープランの中の書き込み内容についてはこれから検討するが、当然、今、青葉区が抱えている課題について、区内だけでなく近隣の自治体などの状況等も調査していきたいと考えている。青葉区の場合は、他の自治体との都市間競争の中でどう生き残っていくかということが非常に大事なところかと思っている。例えば近隣の川崎市とか隣接の町田市などの状況も加えて、何が青葉区に足りないのか、何をやっていくのかということをしっかり調査した上で、それをどういう形で書き込むかは今後考えていきたい。
山下議員	これからは東急沿線も田園都市沿線も鷺沼を開発するわけで、二子玉川もそうだが、現状はどんどんそっちに持っていかれている。どういう街をここにつくっていくかという魅力がだんだん薄れてくると中途半端になってくるので、ぜひ20年後、若い人が出ていっても、この街に戻ってもう一回所帯を持って住みたいと思える環境を、職住近接も含めて考えていただきたい。 最後に、34ページの農あるまちづくり推進事業について、GREEN×EXPOの機運情勢を兼ねての地産地消農業というのは、場合によってはGREEN×EXPOのコンセプトに合わなくなる可能性もある。GREEN×EXPOは万博なので、世界から人が来る。我々が発信の仕方を間違えると都市緑化フェアの延長戦みたいなことをやるのかというふうに伝わり、チープなものになってしまうとGREEN×EXPO自体がしぼんでしまう。見せ方が非常に難しいが、ここのPRの仕方は、地元の農業にジョイントするがためにGREEN×EXPOのほうが冷えるようなことにならないようにしてもらいたい。表現の仕方が非常に難しいと思うが、いかがか。
中島区長	そのとおりである。もちろん、環境という意味ではGREEN×EXPOと都市農業はつながる部分もあると思っているが、一方でGREEN×EXPOの存在以前から、青葉区は都市農業の問題をずっと抱えている。営農そのものは環境創造局の支援や農協の支援などでやってきているが、急速に住宅地が拡大してきた中で、近隣住民との関係やお互いの信頼関係づくりに、営農者の方は今、非常に戸惑いつつも手探りでいろいろ取り組んでいる。そうしたところもこの事業の中で議論をして、何ができるか考えていく。それが最終的にはGREEN×EXPOの向こう側にある脱炭素社会につながっていくのではないかと思っているので、イコールではないが、目指している方向は同じだと捉えている。

山下議員	<p>ここは意見が合わないが、防砂ネットを張ることとGREEN×EXPOで目指すものを同じPRの中に入れていくと、GREEN×EXPOは行ってもつまらないというイメージが残ってしまうと思う。ワクワク感とか、GREEN×EXPOをやることによって横浜にどういった経済的な効果をもたらすのかが大きなビジョンで語られる中で、今の話も大事だが、一緒に出すことによってGREEN×EXPOが違ったメッセージにつながってしまうと、それが市民に伝わり、行こうという気持ちに果たしてなるのか。それも踏まえて、少し慎重に検討していただきたい。</p>
中島区長	<p>しっかり検討していきたい。</p>
伊藤議員	<p>21ページの30周年記念イベントで、ボッチャ大会を行うというのがある。最近、インクルーシブの点からもボッチャが大分広がってきて、大変いいスポーツだと思うが、「ボッチャって何？」というようなことや、やっている方々から場所がないという話も聞く。30周年大会をするに当たって、どのような形で皆様に広めたり、工夫や協議を進めていくのか。</p>
帰山地域振興課長	<p>この30周年記念イベントについては、スポーツ推進委員の方が中心となって提案いただいている。スポーツ推進委員の研修会等でもボッチャを種目とした研修を実施して徐々に広まっている。これからそういった活動を通してスポーツに親しんでいただく機会をつくっていくことになると思うので、推進委員の方々とも相談しながら、そうした機会づくりや場所の問題に対応していきたい。そのきっかけとして、この30周年イベントを提案いただいているので、これを成功させて広めていく機会にしたい。</p>
伊藤議員	<p>見る方も参加する方も楽しめるように、ボッチャとはこういうものだというのができる限り広まるように、しっかりと取り組んでいただきたい。</p>